

第 4 号

平成 11 年 3 月 31 日発行

森

の

こ

え

会報 芸術の森地区青少年育成委員会

発行責任者 安藤 晃

総務省青少年対策本部主催の、青少年健全育成中央フォーラムが鹿児島市で開催された。

「青少年健全育成のために薬物の乱用防止を考えよ」という議題で、アメリカ、イタリア、マレーシア、日本の薬物の専門家による、各国の薬物汚染の現状について発表があつた。

薬物使用禁止への対策や、使用者のデータ、医学的見地からの報告等である。

和田清医学博士によると、日本では高校生の覚醒剤による補導数が、一九九四年までは全国で約四〇人につきなかつたのが、その後急激に増加し、ついで、一九九五年には九二人、一九九六年には二四人と、前年に比べて二倍強の増加となつてゐる。

薬物使用的動機の八四%は、「友人から誘われて」であり、その子供の家庭の大半では家族全員で夕食を食べる習慣がないということがあつた。

「みんなが行くから」と、塾や習い事に通い始めるのはよいが、家族全体の遅い帰宅に慣れすぎて、子供への関心が薄れていつてはいないだろう。

アーチー、マレーシア、日本の薬物の専門家による、各国の薬物汚染の現状について発表があつた。

薬物使用禁止への対策や、使用者のデータ、医学的見地からの報告等である。

和田清医学博士によると、日本では高校生の覚醒剤による補導数が、一九九四年までは

アーチー、マレーシア、日本の薬物の専門家による、各国の薬物汚染の現状について発表があつた。

薬物使用禁止への対策や、使用者のデータ、医学的見地からの報告等である。

和田清医学博士によると、日本では高校生の覚醒剤による補導数が、一九九四年までは

アーチー、マレーシア、日本の薬物の専門家による、各国の薬物汚染の現状について発表があつた。

薬物使用禁止への対策や、使用者のデータ、医学的見地からの報告等である。

和田清医学博士によると、日本では高校生の覚醒剤による補導数が、一九九四年までは

芸術の森地区青少年育成委員会  
会長 安藤 晃

## 道外研修に参加して

### スポーツ部

部長 金子 侑

平成一〇年度の当青少年育成委員会スポーツ部の活動と

しては次の二つがあります。  
▽南区少年少女スポーツ大会  
(ドッヂボール)

今年度は十一月十五日、南区  
体育館で開催された大会には、  
南区内の小学生二十九チームが  
参加し、その中で芸術の森地  
盤小学校の三、四年生(低学  
年)と、五、六年生(高学年)  
各二チームが参加しました。

初参加した平成八年度は、低、  
高学年ともに優勝しましたが、  
その後は各チームの追い上げ  
に苦戦し、今年度は残念ながら  
二回戦までに四チームとも、

姿を消しました。  
△初心者スキー教室、  
開催されるこの教室は、小学  
生一、二、三年生の初心者を  
対象として開催しており、冬  
休み期間中に少しでもスキ  
になれていただき、三学期か  
らのスキー授業に役立ててい  
ただこうというものです。



また、スキーを通して親子や  
地域の絆を深めることによつ  
て、青少年の健全育成を目指  
すものであります。このスキーの指導に当たつては、コーチの確保に苦労して  
おりましたが、今年度から藻岩スキー場のフェアリースキ  
ー学校の指導者の皆様にご協  
力いただき、安定したコーチ  
の確保に目処がつきました。

一方、ゲレンデに目を移しま  
すと、一日目はスキーを履い  
て歩くこともままならなかつ  
た一年生が、最終日には斜面



を滑走する姿を見ますと、子  
供の吸収力の早さに感心する  
とともに、将来のオリンピック  
選手を期待するのは私だけ  
でしょうか。

当育成委員会としては、子  
供と地域の関係が大切といわ  
れている中で、少しでもその  
架け橋になり、子供と地域の  
よりよい関係を育成していく  
よう努力してまいりたいと考  
えておりますので、各種行事  
に参加していくなど、皆  
様のご協力をお願ひいたしま  
す。



